

一穂ミチの 日々漫画

トマトスープ「奸臣スムバト」
異国の世界観にどっぷり浸れる
唯一無二の画風

一穂ミチ (いちほ・みち)

小説家

大阪市在住。2007年『雪よ林檎の香のごとく』でデビュー。劇場版アニメ化もされた『イエスカノノ半分』など、BL作品を中心に執筆。2022年、初の一般文芸作品『スモールワールズ』で吉川英治文学新人賞、2024年、『光のどこにいてね』で島清恋愛文学賞、『ツミデミック』で直木賞を受賞。BL漫画の原作担当作品に『ブルーモーメント』（作画・ymz）がある。

以前、「古代ジョーシアの製法でワインを作る」という趣旨のnoteを読んだことがある。古代ゆえに製法といっても「葡萄の搾り汁を放置する」しかないのだけれど、文章がとにかく素敵で、都会で働く疲れた勤め人の帰宅を、ほんのり発酵したワインの香りが出迎える描写に心惹かれたのを覚えている（※個人でアルコールを何やかんやされる場合は必ず酒税法をご確認ください）。

ジョーシアといえばトルコの近く、ワイン発祥の地と言われる「シユクメルリ」というシチューっぽいものがうまいらしくたまにバズる。わたしのジョーシアに関する知識はその程度しか

と言われ、笑顔で「うん いいね」と応じる場面から始まる。確かにタイトルで「奸臣（＝悪心を抱く家臣）」って言うちゃってるけど、でも何で……？

「僕らは何でこたない田舎貴族」

「領地といえば葡萄とアプリコットの畑それから険しい岩山」
ジョーシア王国の地方領主として、山に囲まれた土地を治めるオルベリアン家。その次男坊に生まれたスムバトが、突然の父の死をきっかけに自らの家系のルーツに触れることになる。

自分たちは何者で、何をなすべきなのか？

「僕 もっと勉強する」

「自分で決めるにはまだ知らないことが多すぎるから」

得た知識と見聞は人生の武器にも指針にもなりうる。そして、自分の道は自分で切り拓かねばならない。「ジャードウーガ



ない。あ、あと、今年のミラノ五輪でフィギュアスケート・ペアの銀メダルに輝いていた。ブルーの衣装が美しかった。ジョーシアでは冬季五輪初のメダルということで、おめでとうございます……本当にもう、知っていることがない。

ジョーシアの地理も歴史も文化も知らない無学の徒にも、漫画は広く門戸を開いてくれている。この夏、「天幕のジャードウーガル」のアニメ化を控えるトマトスープの「奸臣スムバト」①「新書館」だ。わたしはもうジャードウーガルのアニメが楽しみで楽しみでこれからの高温多湿にも耐えていく所存だけれど、こちらはすでに数々の漫画賞に輝いているので「すごいから読んでください」と記すにとどめたい。

そして「奸臣スムバト」もまだ1巻しか出ていないのにわくわくさせてくれる。舞台は13世紀のジョーシア王国。スムバトと呼ばれる青年が、兄からいきなり「寝返るぞ モンゴルに」



ル」にも共通して描かれているこれらの強い信念は、スマホひとつで情報や選択肢を検索できる21世紀のわたしの、緩んだ背中をすっと正してくれる。絵がいいんだ、また。絵本のような素朴なタッチで、喜怒哀楽の機微を見事に表現してみせる唯一無二の画風だと思う。シンプルながら線ながら服装や小物まできちんと描き込まれているため、異国の世界観にどっぷり浸ることができる。

ユーラシア大陸の覇権を握っていたタタール——モンゴル帝国がジョーシアの王都に迫る。そしてスムバトは冒頭の裏切りへ。でも彼をめぐるドラマは始まったばかり。美貌のボンコツ女王、野心に燃える宰相の妻、恋に恋するペルシアの詩人、そしてモンゴルサイドの思惑……土地と歴史が織りなす壮大なタペストリーはどんな模様になるんだろう。すごいから読んでください。結局これ。

「奸臣スムバト」
大好評発売中！



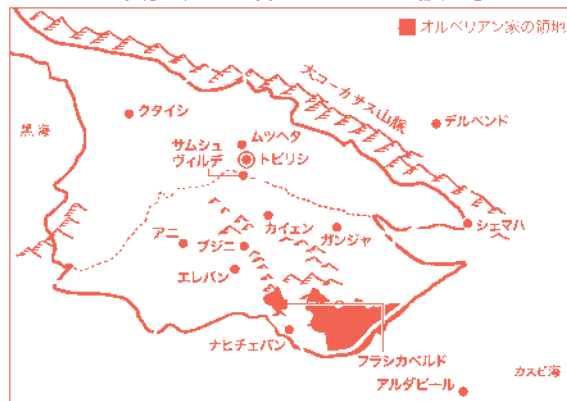
試し読みは
こちら



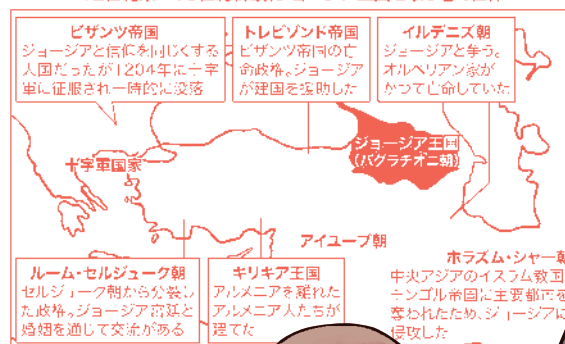
出典：
朝日新聞社が運営する本の情報サイト
「好書好日」の人気連載
「一穂ミチの日々漫画」より
<https://book.asahi.com/series/11039194>



13世紀ジョージア王国とアルメニア 主な都市と道



12世紀末〜13世紀初頭、ジョージア王国を取り巻く世界



コーカサス紀行



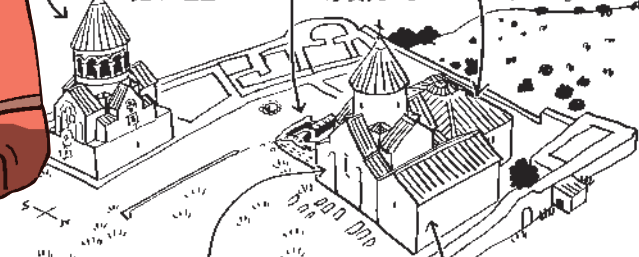
ノラヴァンク修道院

13〜14世紀にオルベリアン家のもとで建てられた建造物が今も残ります

Surb Karapet Church
1216〜1227年にリパリトが建てた聖堂
崩れています

Gavit (前室)
1261年にスムバトが建てたもの
天井近くにライオンと戦う
スムバトのレリーフが
彫られている

Surb Astvatsatsin Church
1339年にブルヘル・オルベリアン
(タルサイチの孫)が
建てた聖堂



Surb Stepanos Nakhavka Church
1216〜1221年にリパリト、アブラハム、
ナルギス主教が建てた聖堂

Surb Grigor chapel
1275年にタルサイチが
建てた聖廟
オルベリアン家の
墓石が並ぶ

修道院近くのアレニ村は
ワインで有名です。
紀元前4100年頃のワイナリーと
現代のワイナリーが楽しめます。



ライオンの
レリーフの
墓石

タルサイチの墓
(大ぶる)

スムバトの墓

他の兄弟や家族の墓もあったのかもしれませんが私(トマス)には分かりませんでした。血眼で墓を探していたら現地ガイドさんにオルベリアン家の末裔が何人かいたと言われました。

STORY

西暦1236年、ユーラシア大陸に広大な領域を広げるモンゴル帝国が、ジョージア王国を飲み込もうとしていた。美貌で名高い女王、ルスダンは東からの侵略になす術を持たず、王国内各地の領主たちは次々と王家を見かざり、モンゴルへ寝返っていく。スィウニク領主オルベリアン家もそのひとつ……。

田舎貴族オルベリアン家の次男で、宰相アヴァクの元に預けられていたスムバトの人生は、父リパリトが何者かが放った矢に倒れたことで、動き出す。父リパリトの死の真相、宰相への疑念、かつてジョージア王を裏切ったオルベリアン家の秘密——。自分たちが何者なのかを知りたいと強く願うスムバト。そんな時、いよいよモンゴル軍が侵襲してくる。「モンゴルに寝返るぞ」。スムバトは兄エリクムとともにモンゴル軍の天幕へと出向いて行くが……!?

スムバト

オルベリアン家の次男、エリクムの弟。

エリクム

スムバトの兄。父の後を継ぎ当主となった。

モンゴル軍



バイジュ
モンゴルの将軍。

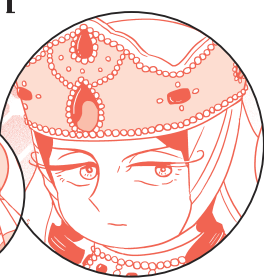


チョルマゲン
将軍。
モンゴル軍総司令官。

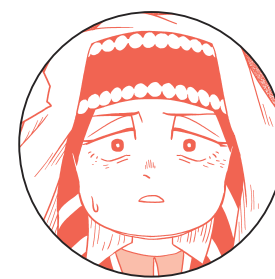
ジョージア王国 ほか



ファルハード
ガンジャ市生まれの詩人



ルスダン
ジョージア王国の女王陛下。



グヴァンツァ
アヴァク・ザカリヤンの妻。



アヴァク・ザカリヤン
ジョージア王国の宰相。
女王陛下の次に偉い。